

# 善養寺便り

第二十号

平成三十年 秋号

発行 善養寺

## ◆「秋の彼岸会」と「第三回おてらくい」

九月二十二日(土)午後一時半より「秋の彼岸会」と当山三年目になる桂雀々さんをお迎えして「第三回おてらくい」を開催しました。

当日は、護持会役員さん、仏教婦人会、浜屋さんらに午前中からお越しいただき、高座の組み立てと、会場設営をしていただきました。高座は、机を並べ、その上に特注の板を乗せ、その上と周りに緋毛氈をまとわせ、最後に紫色の座布団を置き、あとはマイクを設営して完成です。マイクは、毎回専門の業者にお頼みしています。設営後は、坊守らによるカレーの昼食をいただきました。

そして、今年は、初めての試みとして、彼岸会、落語会と前後



で、本堂全体が大笑いでした。本当に楽しく、よく笑わせていただきました。

当日は、ご門徒の方、近隣の方などで本堂は満堂で、百名近い方にお越しいただき、今年も開催した甲斐がありました。そもそも、お寺にもっと多くの方に気軽に来てほしいと考え始めた「おてらくい」です。来年も是非「おてらくい」と「お寺マルシェ」も開催したいと考えています。そして、もっともっと多くの皆さんに来ていただきたいと思えます。



総代表北野実さん挨拶



桂雀々さん

して「お寺マルシェ」を開催しました。「マルシェ」とはフランス語で「市場」という意味です。落語とともにちょっとしたお買い物ができる、そんな楽しい催しを企画したところ、近隣の四つのお店が出店してくださいました。 出店



- 「ハッピーフラワー カサイ」  
(花屋さん 八代東光寺町)
- 「バナビーンズ」  
(木工雑貨屋さん南新在家)
- 「あさのは商店」  
(肌によさしい日用品屋さん 八代)

「おはぎ屋さん」(おはぎカフェさん 南新在家)

皆さん、マルシェで楽しくお買い物もしていただき、おはぎ屋さんのおはぎは完売しました。お店の方も喜んでいらっしかったです。

桂雀々さんの落語は、今年は「風邪うどん」という演目でした。風邪を引いた客が屋台のうどん屋に来て、いろいろ問答するお話です。

うどんの屋台が舞台なので、うどんをすすする所作と かもあり、雀々さんの大きな所作と熱のこもった口調



## ◆平成三十年報恩講法要

十一月一、二日、今年の報恩講法要を勤めました。二日間ともさわやかな秋晴れの大変良い日和のもと、多くの門信徒の皆様にお参りいただきました。当山では毎年、曜日に関係なく十一月一、二日に勤めています。

報恩講法要は、宗祖親鸞聖人のみ教えに生きる私たちが、聖人への報恩感謝のための、真宗寺院としては最

も大切な法要です。報恩講は、ご法中ほつちゆうと言って、近隣の本派の七寺院がお互いの報恩講法要に出勤し合います。衣体(えたい)≡僧衣(そうい)も、色とりどりの色衣(しきえ)(しきえ)に五条袈裟をつけて、行道もまじえてお勤めをします。導師も一日目は他のお寺が勤めます。

また当山では、ご承知の通り、婦人会の方々の手作り料理(お斎)のお接待があります。今年の当番は、新在家、北八代、西八代、旧八代東ノ町の年番の方でした。三日間誠にありがとうございます。



お斎の接待は、昭和四十年代からずっと続いており、婦人会の方の愛情がこもった料理は毎年本当に美味しく調理されています。まだ一度も召し上がったことがない方、是非とも来年はお参りください。

報恩講法要は、本堂の内陣も、報恩講用のお飾り(お荘厳)しようごんをします。本堂ご本尊前にある大きな台を前卓(まえじよく)と言いますが、普段は、前卓の上は、向かって右から、蠟燭立て一本、香炉、華

た。少し説明します。

「本願名号正定業」(ほんがんみょうごうしょうじょうごう)と読み、書き下すと「本願の名号は正定の業なり。」となります。「本願の名号」とはもちろん「南無阿弥陀仏」のお名号です。そして「正定業」は「正しく衆生の往生が決定する行業、業因」という意味の言葉で、この句の後に「至心信楽願為因」(至心信楽の願を因とす。)という句が続きます。「至心信楽の願」というのが、阿弥陀様が誓われた四十八願中の第十八願をさします。第十八願が南無阿弥陀仏のお念仏となって私たちの往生を決定しているのです。あとはお聴聞を続けましょう。



## ◆平成三十年度の行事

十二月九日(日)午後一時半

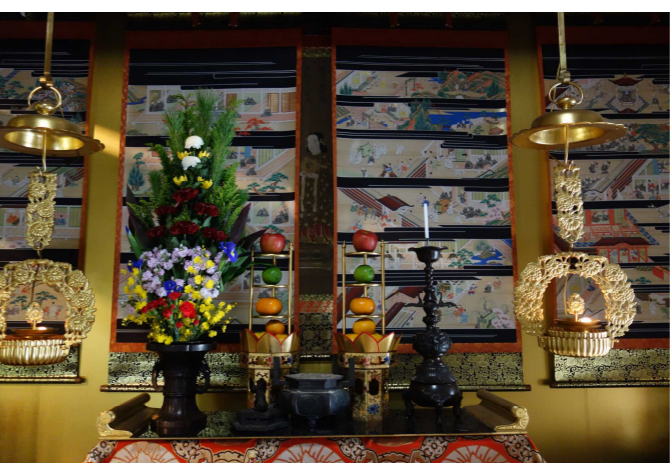
「別永代経法要」(別途案内)

瓶(けびょう)の「三具足」ですが、報恩講時は、蠟燭立てと華瓶は各一對+香炉の「五具足」となります。

また供物つまりお供えものは、当山では小餅と五穀から出来たお菓子そして果物をお供えします。お餅は、以前は生の小餅の段盛りをしていましたが、昨今の温暖な気候ではすぐカビがつくので、現在は包装された小餅を飾りの台に張り付けてお供えします。

また、右の余間には、親鸞聖人の「御絵伝」をかけた「御絵伝」とは親鸞聖人のご生涯を絵で表したお軸です。

どの法座もお寺の布教伝道活動には欠かせないものですが、報恩講法要は、宗祖親鸞聖人のご命日法要として、門信徒様と一体になって修行(しゅうぎょう)すべき法要なのです。



さて、今年のご法座のご講師は、宍粟市一宮町から黒田真隆師にお越しいただきました。師の熱く、楽しいお説教に皆さん引き込まれ、熱心にお聴聞されていました。師のお話の中に正信偈の句言がいくつかできま

同十四日(金)午後一時半

「第三回仏教婦人会仏教講演会」

ご講師 谷川弘頭師

同二十二日(土)十時から

「納骨堂一斉掃除」

納骨堂にお納めの方対象、皆で一緒に一斉に掃除をします。年末のお参りを兼ねて、どうぞご参加ください。

三十一年一月一日・元日 九時より「元旦会」

三月八日(金)午後一時半

「第三回仏教婦人会仏教講演会」

ご講師 安方哲爾師

十一月のことば

今ここにいる私の上に、自ら求めるより先にすでに与えられている法が、南無阿弥陀仏の名号である。

